

修験道はグローバルな宗教

総本山金峯山寺長 藤・田中師

火曜午餐会・4月第2例会は公開講演会として、16日13時から当部5階大会議室で開催した。講師に金峯山修験本宗・総本山金峯山寺長藤、種智院大学客員教授の田中利典師を招き「修験道はグローバルな宗教」をテーマに語って頂いた。田中師は、「奈良で仏教と神道が融合して修験道が出来た。まさにグローバルな場所。この価値観を、もう一度取り戻して今後に生かしていただきたい」と語られた。講演要旨は次の通り。

修験道とは、山の宗教であり、山伏の宗教。大自然が道場であり、山には神仏が、おられることを前提に畏れをもって修行する。また、宗派を超え、自分の身体を使い実際の感覚を体得する実践宗教。そして、神道と仏教が融合、調和した神仏混淆の多神教宗教で、修験はこの中で生まれた。

世界三大宗教は、キリスト教、イスラム教、そして仏教。これらは、世界的規模で発展、流布してきた。

修験道は「グローバルな宗教」



です。グローバルとは、グローバルな宗教である仏教と、日本土着のローカルな宗教である神道が、一緒になったもの。

常に庶民の側にいた在家、民衆の宗教が修験道。そして、「山の行より里の行」とよく言われ、山で修行した力を里で生かすこと。このことを役行者は行ってきた。

修験道の復興

明治に入り、神仏判然（分離）令、修験道廃止令が出された。その後、徐々に復興し、平成12年には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。紀伊半島の大自然の中、異なる霊場が千年以上に亘り日本人の信仰、自然観、世界観の象徴であった。つまり、グローバルな風土が、紀伊山地に顕著に残っており、これを

支えてきたのが、修験信仰だと言える。

グローバルな時代へ

宗教の時代から、政治が権力を持ち、人々の生活の中心へと変わった。そして近代以降は経済が中心の時代となり、技術が世界を支配する時代へと変わってきた。言い方を変えれば、ローカルなものがグローバルへ。

しかし、もう一度、個人の持つ宗教心と文化感を取り戻さなければ、我々の生活は成り立たない。そして、自然に対する感謝、畏怖と恩恵を持つという人間の根源的なものがなければいけない。

奈良は日本の始まり。奈良で仏教が根付き、仏教と神道が融合して修験道が出来た。まさにグローバルな場所です。全て奈良で生まれ、奈良で発展してきた価値観を取り戻し、今後の、日本の文化、社会に生かしていただきたい。